

室蘭栄高校 SSH 通信

da Vinci seed

ダ・ヴィンチ シード

令和2年10月13日(火)

第 4 号 発行

北海道室蘭栄高等学校

2年生の課題研究「中間発表」

9月29日(火)に課題研究の中間発表が行われました。課題研究の進捗状況を確認し、質疑応答を経て研究の方向性を修正し、これからの課題研究を円滑に進めるために行われるものです。

各班の研究について、

- ① **これまで実施したこと(作業仮説・実験法・データなど)**
- ② **これまでに分かったこと**
- ③ **今後明らかにしたいこと(今後の展望・今後の方向性など)**

について発表してもらい、その後、先生方や生徒から質問してもらい、それについて、答えてもらうという形式で進められました。先生方や生徒たちから鋭い質問が飛び交い、研究グループもたじたじになる場面もありましたが、これからの研究につながるよい討議ができたと思います。特に、担当の先生方からは、

- ① **このまま進めていって、成果が出る(または出そうな)研究や実験をしているか**
- ② **改善すべき点があれば、それはどこか。**
- ③ **この班の研究の質を上げるために必要なことは何か。**

についてよく検討するようアドバイスが送られ、課題研究発表会に向けて再度目標を持たせ、よりよき研究への取り組みができるような機会になりました。



1年生のミニ課題研究「地域学」

SSHの取り組みとしては、初めての取り組みである、1年生のSSH基礎の時間でのミニ課題研究「地域学」が実施されました。地歴公民科が主担当で、室蘭市及びその近郊の市町村が抱える課題を客観的なデータを基にしてその解決策を探ります。データには、「地域経済分析システム(RESAS:リーサス)」等を用います。

テーマは

- 1 室蘭・登別・伊達の外国人労働者
 - 2 未来の人口推移、高齢化率と集落の存続について具体的な課題
 - 3 室蘭の戦争被害(戦死者数など)
 - 4 室蘭の公害(過去・他地域との比較)
 - 5 室蘭の産業構造の変化(過去・他地域との比較)
- など、10テーマより自分のグループの研究テーマを選び、それについて、リーサスのデータを使って、テーマについて掘り下げていくという作業をこれから6時間行います。最後には発表会が行われます。

